

市町村議員研修会

◆平成 26 年 4 月 10 日(木)～4 月 11 日(金)

◆全国市町村国際文化研究所(滋賀県大津市)

平成 26 年度 第 1 回市町村議会議員特別セミナー

今回のテーマは、「地域再生、まちづくり」でした。地域の資源や人材を有効に活用し、地域の活性化に一層積極的に取り組みを考えるために、各分野で活躍されている 4 氏の先生方から講義を受けました。地域の元気を取り戻すため、自治体の果たす役割について色々と考えさせられました。

〈全国から 169 名が参加〉

4 月 12 日【1 日目】

講義Ⅰ 「地域再生への道～人と人がつながる・ふるさとこそが最前線～」

株式会社 studio=L 代表取締役

京都造形芸術大学芸術学部教授 山崎 亮氏

講義Ⅱ 「伝統行事で地域活性化を～寂れた花街”嶋原”復活奮戦記～」

京都・嶋原太夫 司 太夫氏

4 月 13 日【2 日目】

講義Ⅲ 「地域再生の課題～農山村を中心に～」

明治大学農学部教授 小田切 徳美氏

講義Ⅳ 「金沢市政にかける想い」

金沢市長 山野 之義氏

講義Ⅰ

○様々なところで”まちづくり“に係わっておられる。

講義の内容は、当日の会場の雰囲気や聴衆者の構成で決めるそうで、資料は特に用意されておらず「しまのわ」という小冊子を配布された。

○まちづくりの実践例

- ・泉佐野丘陵緑地…公園を造るパークレンジャーを毎年 30 名募集。ハード面にかかる支出を人にかけて公園を作っていく。住民参加の事業で地域と一緒にまちづくりをやっていく。
- ・立川市…こども未来センター 市民会館の跡地に市民のサークル活動の拠点として建設。37 団体 88 プログラムの講座が開設されて、小学生から 50 代まで参加。

協働可能な利用者団体を増やす工夫をしている。

- ・しまのわ 2014…海の道をつなぐ広島・愛媛の瀬戸内の島やまちが参加するイベント。
瀬戸内アーティスト祭、おかんアート美術館、のろしりレー、除虫菊づくり、
海辺のてんこもり市など日常的なまちづくりを市民活動団体が中心になって行
う。
- ・観音寺市のまちづくり…一つの店の中に別の店を取り込む。下着屋の中にケーキ
屋、クリーニング屋の隣にギョウザ屋などお店の組み合わせで様々な年代の客層
を取り込んでいく、

まとめと感想

人と人のつながる仕組み＝コミュニティデザインを実践されており、これか
らのまちづくりのヒントになるのではと感じました。また、人口減少の中、こ
れまでと考え方が異なる発想が必要だが、そのヒントは身近なところにあるよ
うな気がしました。

講義Ⅱ

京都の嶋原は遊里として栄え有名であったが、明治以降寂れていた。そのまち
をもう一度復活させようと孤軍奮闘された一人の太夫の実践報告であった。

○これまでやってきたこと

- ・個人新聞「こったい」手作りで最初は 50 部、今は 500 部発行
- ・地元の歴史を把握、再認識
- ・伝統行事を復活させる
- ・色々な所へ出席、マスコミやイベント
- ・若い人を育てる
- ・常に人と接する

○現在やっていること

- ・三日間で 300 人の祭が二日間で 1 万人に
- ・『嶋原太夫餅つき会』の復活
- ・『節分 お化け』を街なかで復活
- ・地方との交流

○これからやりたいこと

- ・振袖太夫の店だし
- ・学生との交流と育成
- ・芸妓やお客様の育成
- ・新たな行事の復活
- ・お茶屋を増やす

○やってきて感じたこと

良い心が良き文化を生み、良い文化が良き心を育む。私か公か、どちらで動く

かで物事が変わってくる。自分にできることをこつこつとやっていく。

まとめと感想

司太夫は夕方の懇親会にも出席され、多くの方から名刺交換や写真撮影を受けられ人気者でした。嬉野温泉のこともご存じで、どこの温泉地も厳しい現状ですが頑張ってくださいと声をかけて頂きました。こういう人が歴史や文化を継承したり、新しく作っていくのだらうと感じました。

講義Ⅲ

○農山村の実態

- ・過疎→人の空洞化、中山間地→土地利用の空洞化、限界集落→ムラの空洞化
- ・高齢化率 50%でも限界集落であるが、統計数字だけでは判断しにくい
- ・1990年代末から農業生産額と公共事業が急減

○地域再生(地域づくり)のフレームワーク(仕組み)

- ・暮らしのものさしづくり—地域の歴史・文化・自然。暮らしの仕組みづくり—コミュニティ再生・生活インフラの整備。都市農村交流—農山村の良さを再認識。

○地域づくりの実践

- ・地域資源保全型経済、小さな経済、住民手作りの自治区、無理をしない身の丈にあったコミュニティづくり。

○新たな動き

- ・若者の田園回帰志向、地域おこし協力隊＝地域サポート人の活躍

○地域再生の展望

- ・過疎地域での人口増加、若者の田園回帰の流れ
- ・ふるさとづくり—解体と再生のフロンティア

まとめと感想

農山村では、人口減少に伴い限界集落が広がり危機感が大きく取り上げられているが、数字だけでは判断できないということでした。自然を活かして都市との交流で新しい情報や知識を取り入れながら、自立した社会の形成をめざす動きがでてきているようで、当市でも、地元の資源を活かしたまちづくりをやっていかなければならないと感じました。

講義Ⅳ

市長の山野 之義氏は 52 歳、金沢市出身で平成 7 年に金沢市議会議員に初当選、平成 22 年金沢市長に就任、現在 1 期目。

主に金沢市の歴史を活かしたまちづくりと来春開業を迎える北陸新幹線を視野に入れた観光政策についての講義だった。

○金沢のまちづくり

- ・文化財をイベントなどに有効利用…鈴木大拙館でミニコンサートや講演会、お茶会など週末に開催。金沢 21 世紀美術館でナイトミュージアムの開催。

- ・ 文化的景観の保全…古まちなみ保存条例、用水保全条例、夜間景観形成条例、重伝建地区、国史跡指定、兼六園、重要文化的景観選定など加賀百万石の古都のまちなみが基本として存在している。
- ・ 伝統工芸の伝承と人材育成、伝統工芸を活かした現代工芸の振興。

○北陸新幹線開業に向けた取り組み

- ・ 首都圏でプロモーションの強化、金沢市側の受入れ環境の整備
- ・ 富裕層向けのプレミアムツアーの企画
- ・ 広域観光モデルツアー
- ・ 観光による広域連携(官民連携)

○四季を通じたイベントを開催

- ・ ラ・フォル・ジュルネ金沢(4・5月)、金沢百万石まつり(6月)、金沢アカペラ・タウン(8月)、金沢 JAZZ STREET(9月)、おしゃれメッセ(10月)、金沢マラソン(平成 15 年 11 月)

まとめと感想

市長 3 年目で、エネルギーあふれる話しぶりでした。金沢市は、歴史的文化遺産を形だけではなくその精神までも継承して今日の姿を留めている街です。北陸の雪深い地でありながら、自分の街の魅力を発信し続けてきた結果が今につながっているように思えます。当市においても規模は小さいかもしれないが、当市単独や周りの街とも連携しながら魅力を発信し続けることが大切ではないかと感じました。

身近な話として、金沢市の 21 世紀美術館と旭川市の旭山動物園、それに武雄市の武雄市図書館の公共施設の人気で 3 市連携を考えているとのことでした。